

知財業務に革命を！ 生成AIが導く 知財の新時代

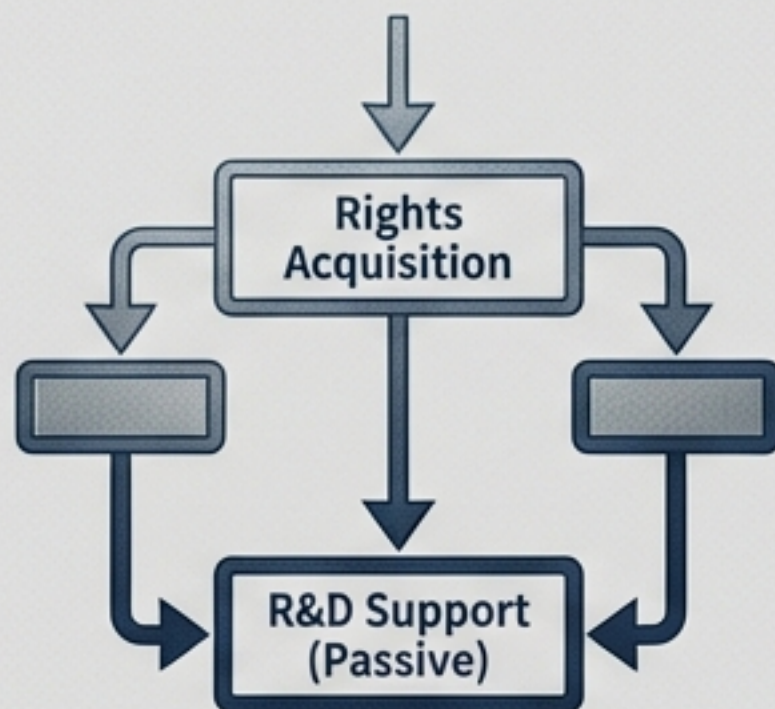
2026年に向けた
「エージェント型AI」活用と
組織変革ロードマップ

乗り遅れないための生成AI積極的活用法



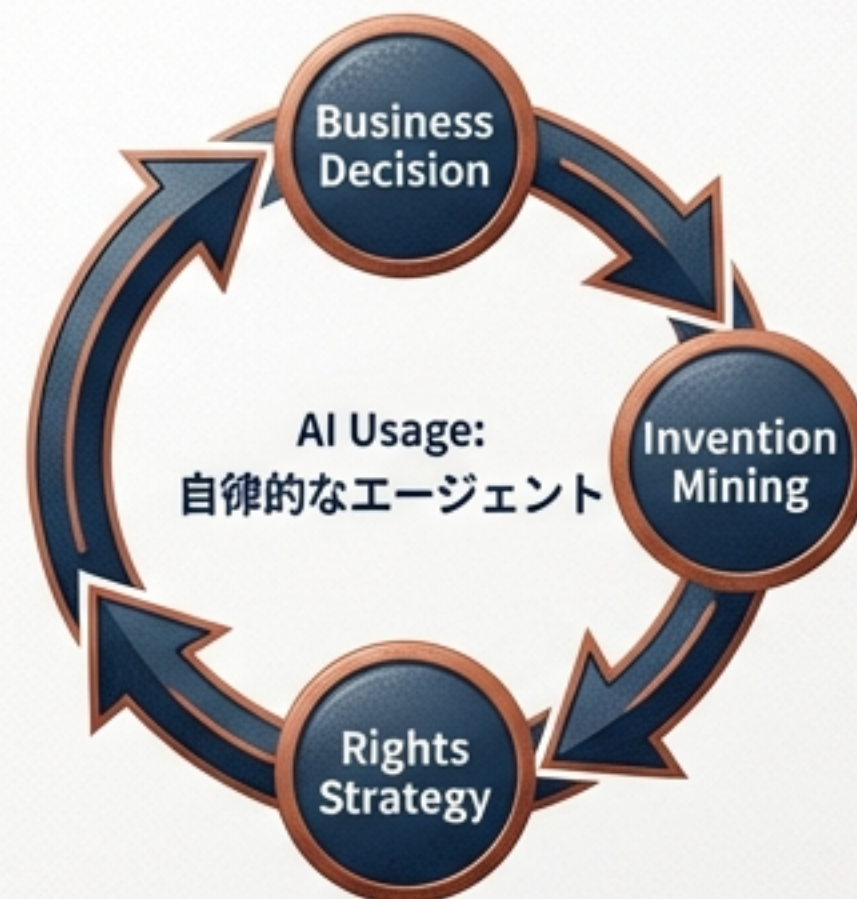
パラダイムシフト：管理コストから価値創造のドライバーへ

BEFORE



Role: 権利化の後工程（バックオフィス）
AI Usage: 受動的な道具

AFTER



Role: 意思決定の前工程（フロントエンド）
Workflow: Business Decision -> Invention Mining -> Rights Strategy

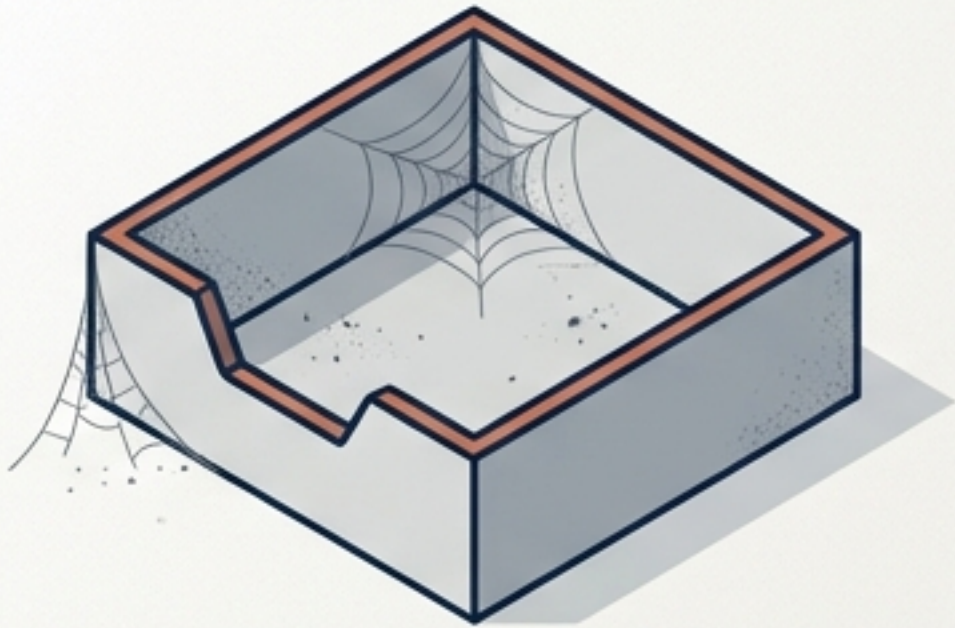
“もはや議論の焦点は『使うか否か』ではなく、『いかに統制し、競争優位性の源泉として組み込むか』である。”

生成AI成熟度モデル：貴社の現在地と目指すべき2026年



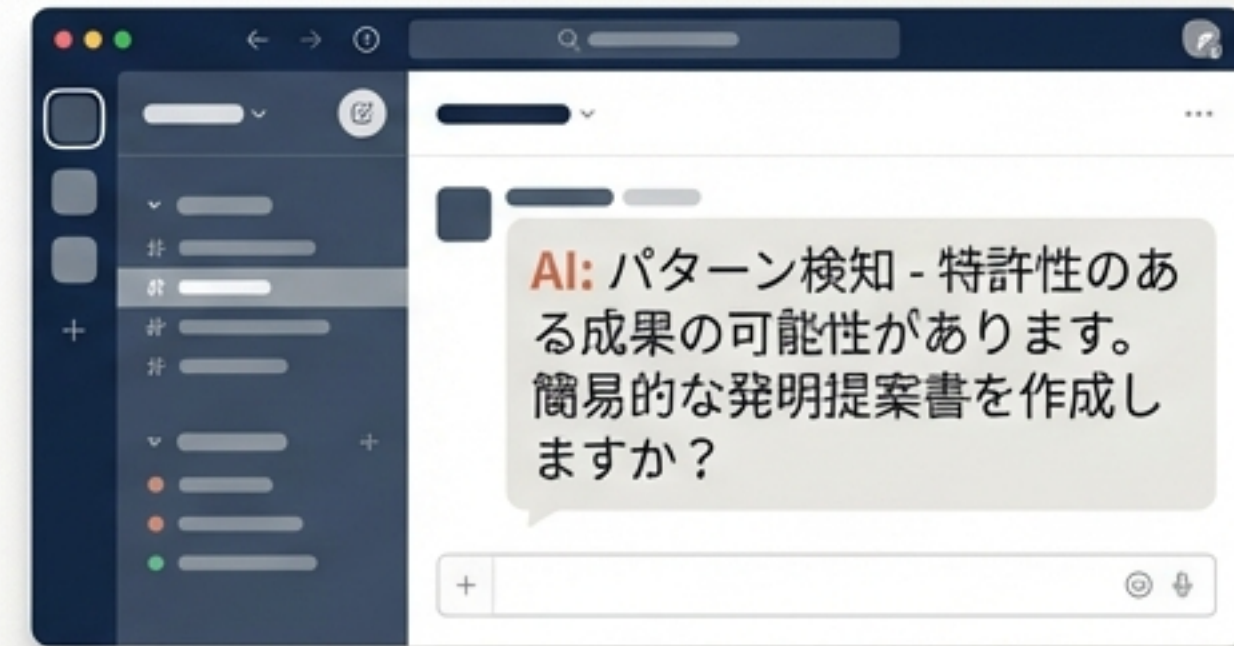
R&D革命 (1) : 「ゼロ・フリクション」の発明発掘

Traditional Pull Model



知財部はIDF（発明提案書）の提出を「待つ」。
エンジニアにとって書類作成は負担。

AI-Driven Push Model

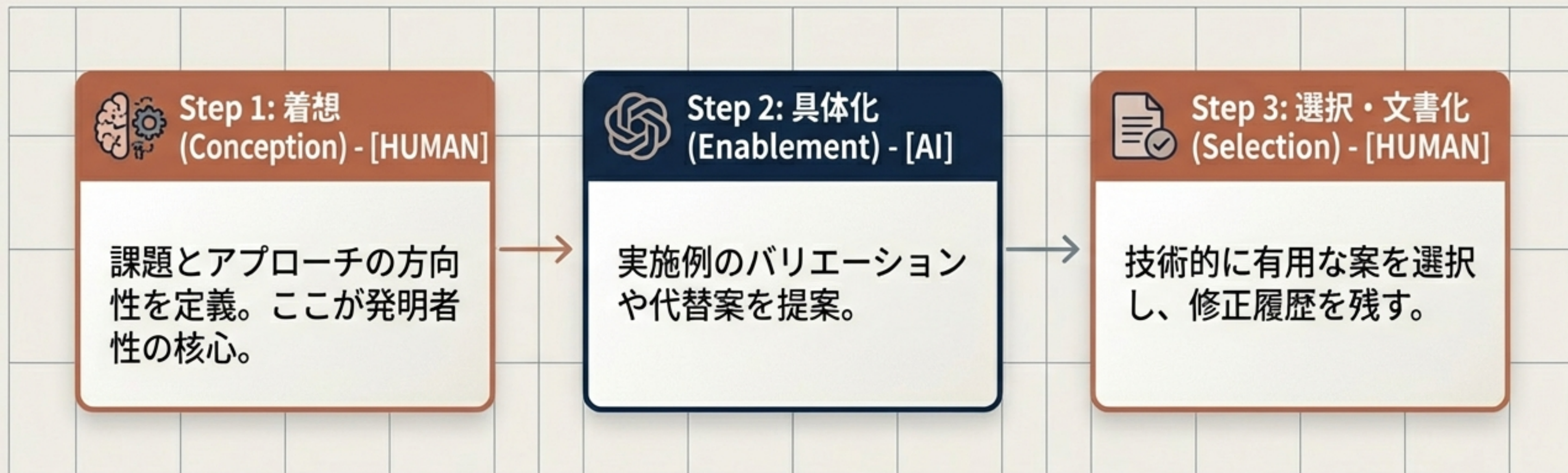


AIが開発フローを監視し、発明の可能性を能動的に検知。
対話形式で負担なくドラフトを生成。

Workflow

- | | | | |
|------------------|--------------------------------------|------------------|------------------------------------|
| 1 Monitor | AI monitors Slack/Teams/Jira | 3 Prompt | Proactive interview bot engagement |
| 2 Detect | Problem/Solution pattern recognition | 4 Execute | 対話型インタビューボットによる自動ドラフト生成 |

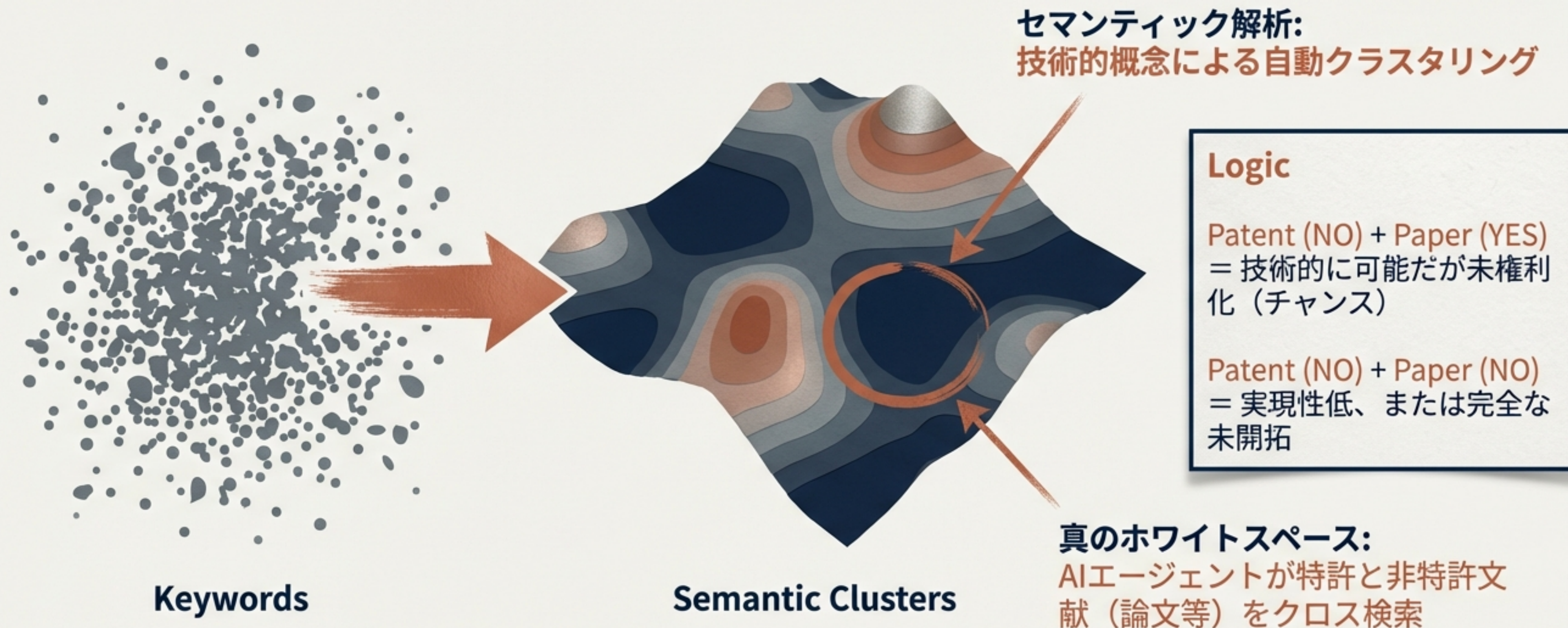
R&D革命 (2) : 発明者性の確保とリスク管理



****リスク管理 (Risk Management)****

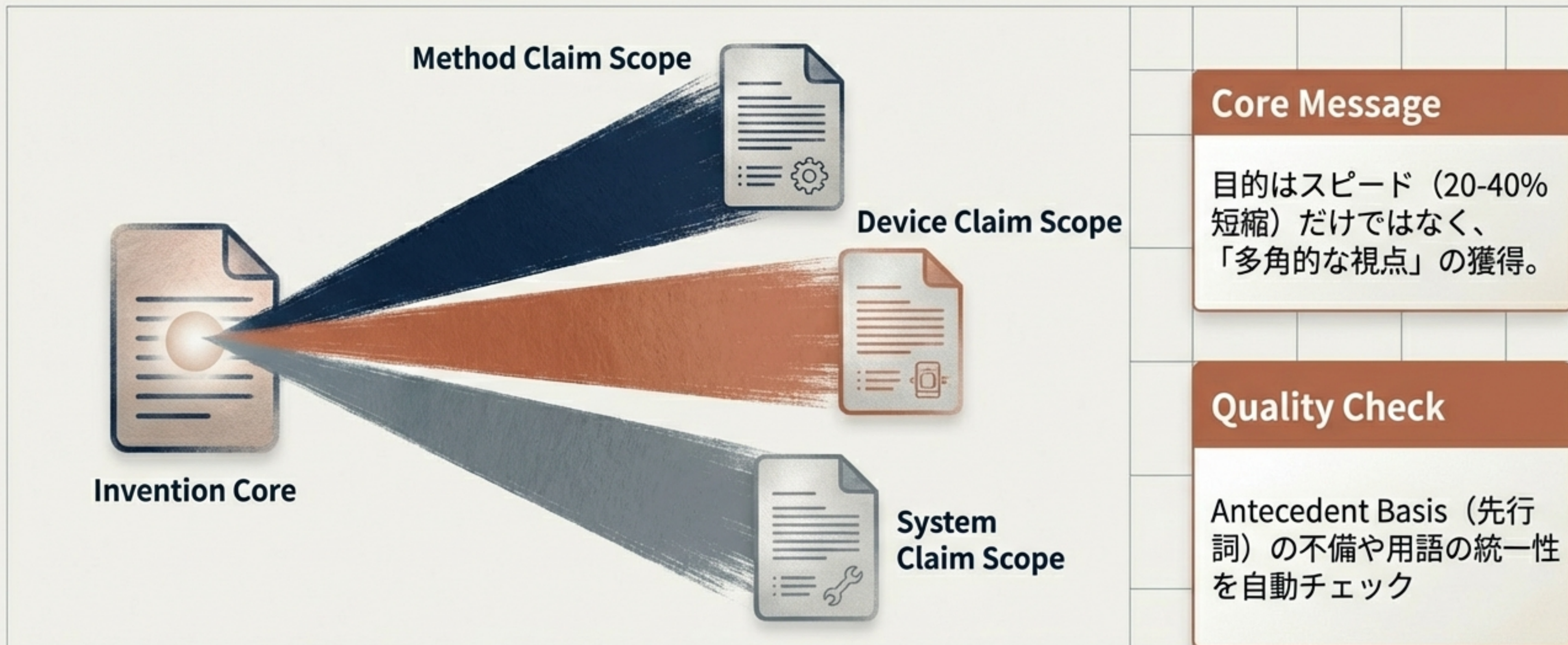
未発表発明は必ず「オンプレミス」または「エンタープライズ環境」で扱う。
公開モデル（無料版ChatGPT等）への入力は厳禁。

戦略的ランドスケープ：データの可視化から「ホワイトスペース」の発見へ



Prompt: Identify structural holes between clusters and hypothesize reasons based on non-patent literature.

権利化業務 (1) : AIによるドラフティングの品質向上



Multi-Scope Generation: 「方法」「装置」「システム」をそれぞれ3案生成させ
をそれぞれ3案生成させ、見落としを防ぐ

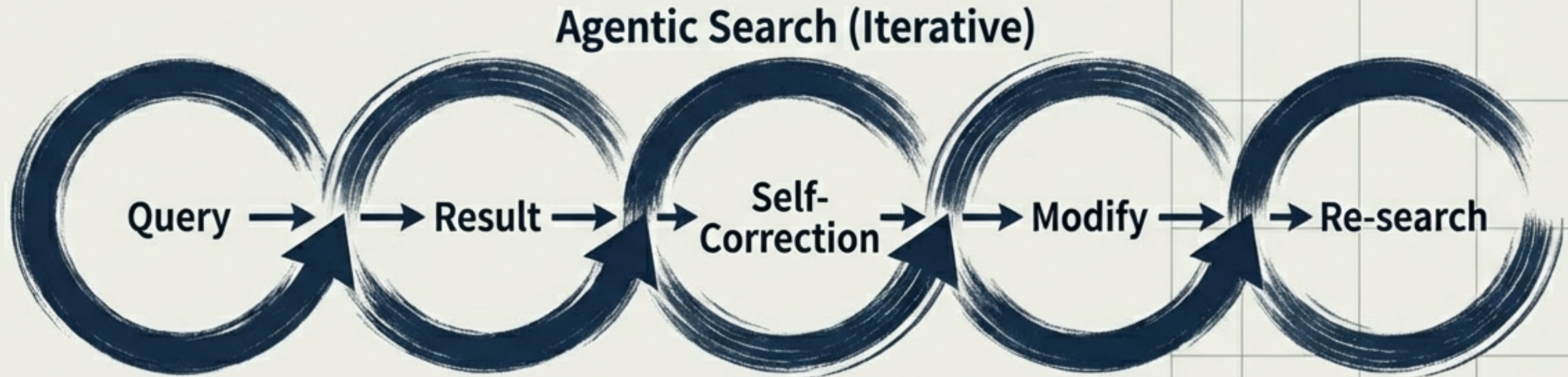
権利化業務 (2) : 対話型エージェントによる拒絶理由対応



補正で早期成立か、原案で戦うかの「戦略的判断」は人間が行う。

調査・FTO：「反復的」検索と常時モニタリング

Traditional Search (Linear)



Product-to-Patent Mapping

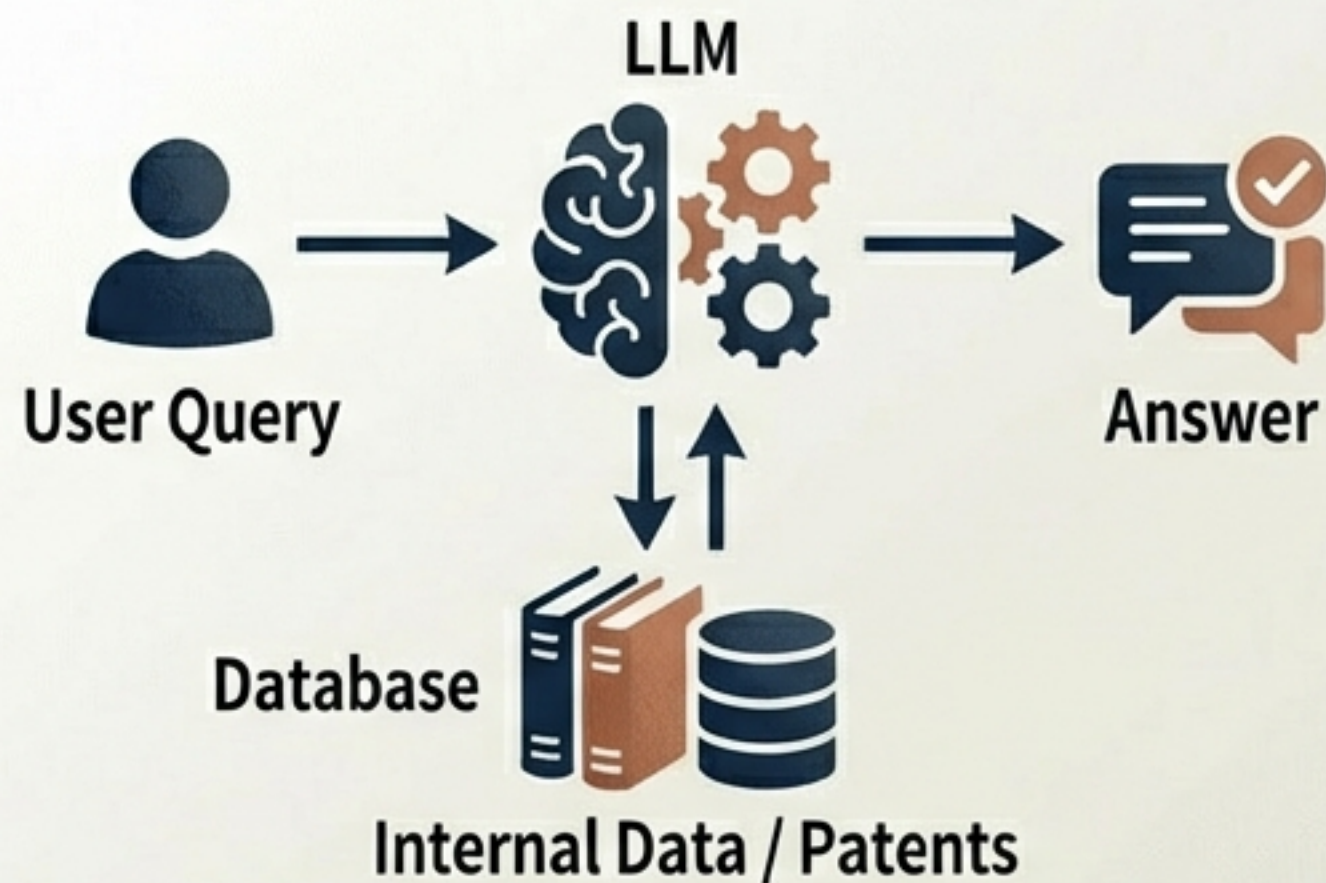
製品仕様書をインプットとし、日々公開される特許と自動マッピング

Continuous Monitoring

リスクヒートマップによる「点」ではなく「線」での監視

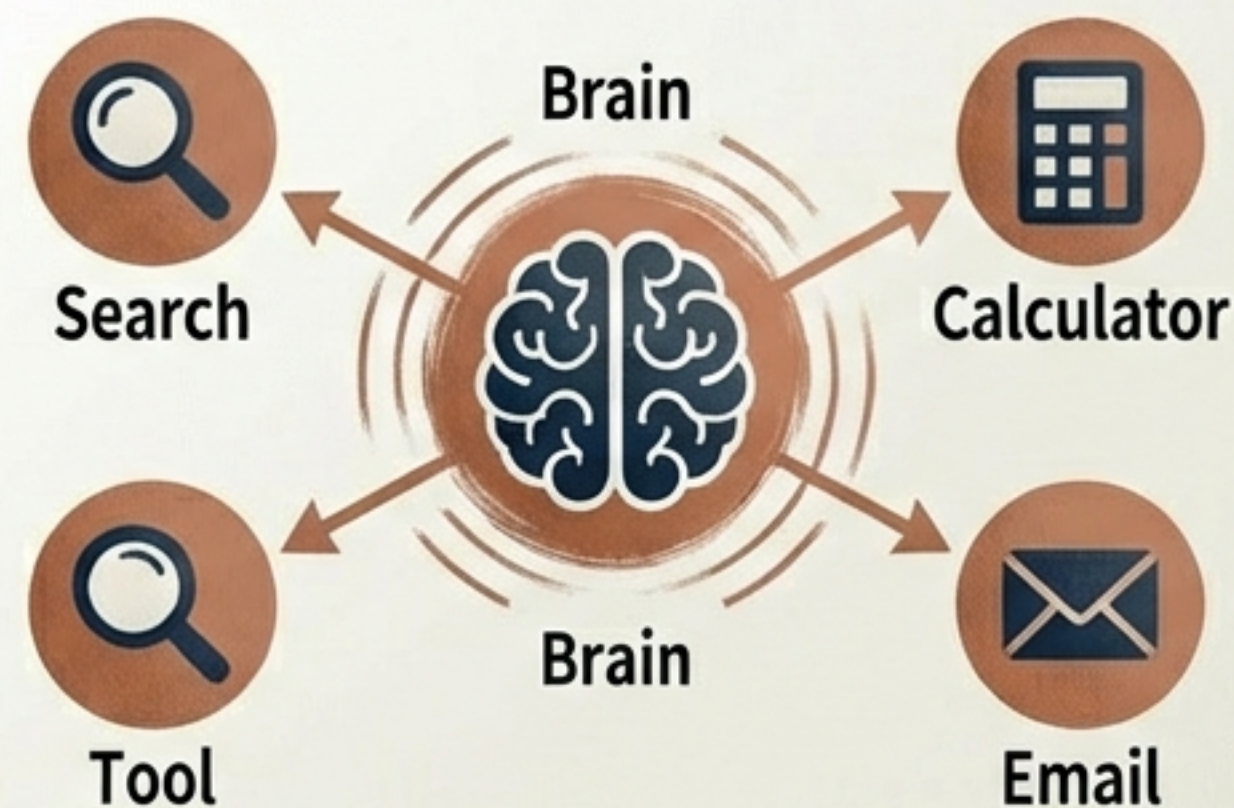
テクノロジー・イネイブラー：RAGとエージェント型AI

RAG (Retrieval-Augmented Generation)



社内データや信頼できる特許DBを
参照して回答を生成。
ハルシネーションを劇的に低減

Agentic AI (エージェント型AI)



単なる予測ではなく、「目標達成」のために
自律的に計画・ツール利用を行う。
オペレーターからマネージャーへのシフト。

組織設計：業務の切り分けとタスク委譲マトリクス



2026年に求められる新たな役割とスキル

「作業者」から「AIの指揮者」へ



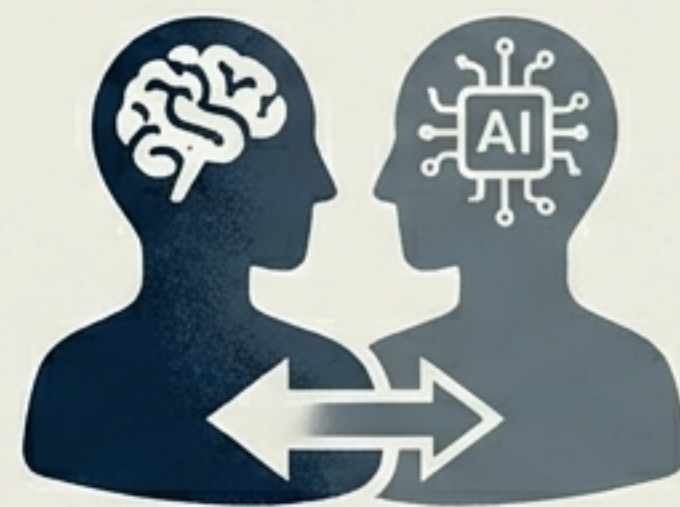
IP Data Strategist

知財データと
事業データを統合し、
経営提言を行う



AI Governance Lead

倫理規定、
バイアスト監視、
法規制対応



Hybrid Intelligence Team

弁理士 +
データサイエンティスト
の融合チーム

ガバナンスとリスク管理



Data Security

パブリックLLMへの入力禁止。
API/エンタープライズ版の利用強制。



Fact Check

ハルシネーション対策。AI生成物の根拠
(条文・引例) は必ず人間が原典確認。



Legal Compliance

Inventorshipガイドライン。「発明の着想」
は人間が行ったという証拠(履歴)を保存。

2026年に向けた実行ロードマップ



Audit:

自社のAI成熟度診断



Pilot & Govern:

- 特定の1業務（例：無効資料調査）でエージェント型AIを試験導入
- データ/AI利用ポリシーの策定



Scale:

- エージェント型AIの全社展開
- 知財をビジネスインテリジェンスのハブ化

結論：インテリジェンスでアイデアを共創する未来へ



選択は二つに一つ。「AIネイティブなインテリジェンス・ハブ」になるか、旧態依然とした「コストセンター」に留まるか。

"The question is no longer 'Should we use AI?', but 'How do we govern it to win?'"

